

HOT NEWS

雲仙復興事務所

平成27年1月13日

～万一の事態に備え～
年の瀬に溶岩ドーム崩壊対策訓練を実施

発信元
雲仙復興事務所
総務課 川邊 智喜

平成26年12月25日、雲仙復興事務所では雲仙復興アリーナにおいて、**各関係機関を対象とした雲仙岳大規模土砂合同防災訓練を実施しました。**

本訓練は、関係機関の連携強化を図る目的で平成22年より雲仙復興事務所主体で実施しており、**今回は平成新山の溶岩ドームが台風による降雨により崩壊をした、という初めての想定**でおこないました。

今回は**各関係機関約40名が参加**し、学習型の訓練を通して刻々と変化する災害発生段階毎の他機関の対応、情報発信の課題について確認することができました。

今回の訓練方法(学習型の訓練)

「司会進行者」(当所進行役)と「訓練参加者」(当所含む各関係機関職員)にわかれ、**災害発生段階(ステージ)毎に状況付与を行ったうえで、「司会進行者」がその対応について質問、「訓練参加者」が回答する形式**で進行了ました。

司会進行者



土砂警戒情報の発表に伴い、
行うべき対策は何か？
では...雲仙復興事務所さん！

質問

回答

参加各組織を一つの災害本部、支部と見立て、それぞれに質問する。
※回答者を特定して当てることはしない。あくまでも訓練参加組織に対して質問し、組織として回答してもらう。

訓練参加者



状況的には警戒体制に入っております。溶岩ドームの監視強化、光波データの解析を進めます！！

質問内容に応じて参加組織内で回答者を決めて、発表する。
※回答者は与えられた設問に対してその場で考え、すぐに回答してもらう。(相談する等の時間的余裕はない)

訓練の効果

- ・司会進行者が状況説明を行うため**参加者全員が災害対応行動等の流れを共有、理解できる。**
- ・各機関の回答を全員が同時に聞くことによって、**他機関がどのような対応をしているのか理解できる。**
- ・時間軸にとらわれないため、場面を区切った訓練ができ、その**都度、補足や解説を行うことにより理解度を向上できる。**

→溶岩ドーム対策の課題の共有、情報共有による各関係機関の防災力向上を目指していく！！

今回の参加関係機関

今回の訓練では、当所のほか、**本局(テレビ会議システムを用いての参加)・長崎河川国道事務所・長崎県(危機管理課・砂防課)・島原振興局・島原市・南島原市・雲仙市**の防災担当者が参加し、時事刻々と変化する状況、次々の質問に対し、防災計画などを元に回答を行い、また他機関の対策方法を確認しました。



長崎県(危機管理課・砂防課)



長崎県(島原振興局)



長崎河川国道事務所



雲仙市



島原市



南島原市



本局

本局はTV会議システムを使い、参加しました！！



訓練の全景



マスコミの熱心な取材もあり、大変緊張感のある訓練となりました！！



インタビューに答える
佐藤事務所長

今回の訓練で得られた情報や課題をそれぞれの組織に持ち帰っていただき、それぞれの防災計画の策定や整備に役立てていただければと思います！！

CHECK !

平成新山の溶岩ドーム

平成新山の噴火活動は現在終息していますが、山頂部には未だ約1.7億m³(=ヤフオクドーム約53杯分)の溶岩ドームが不安定に堆積しており、地震や降雨等による崩壊が懸念されています。



山頂部に不安定に堆積した溶岩ドーム